

WHITE PAPER 02 / CONTENT STUDIO

自社資料から、記事・SNSへ

素材・根拠・確認の分担を、1本の制作手順に。

制作設計ガイド

発信したいことはある。けれど、原稿が進まない。
そんなときは、読者の質問と自社の資料を結び、
誰が何を確認するかを先に決めます。

この資料で持ち帰れるもの

記事テーマを絞る考え方 / 素材と根拠の記入シート
構成を依頼する指示文 / 記事・SNSの確認チェックリスト

読む順番	使い方
02 決める	読者の質問と、記事が答える範囲を1つに絞る
03 集める	使える資料・書けること・確認待ちを分ける
04-05 つくる	構成から下書きへ。公開する版を人が確認する
06 相談する	制作量・媒体・確認の分担を整理する

対象：中小企業のマーケティング担当者・広報担当者・経営者
掲載例は架空の説明用です。Content Studioは事前相談を受け付けています。

01 / PLAN

答える質問を、1つに絞る

読んだ人が何を準備・判断できるようになるかを決めます。

決めること	記入例：架空の商品撮影サービス
読者	商品撮影を初めて外注するEC担当者
質問	見積もりを頼む前に、何を用意すればよい？
読後の行動	商品点数・写真の用途・必要画像・希望時期を整理する
使う根拠	現行サービス案内、見積確認票、発送・返送の案内
今回書かないこと	資料で確認できない価格・納期・実績・利用者の声

1つの素材から、役割を分けて展開する

記事：準備する項目と、その理由を詳しく説明する。

SNS原稿：読者がすぐに使える確認事項を1つ取り出す。

次の行動：詳しい記事や、内容に合う相談先へ案内する。

同じ質問に答える既存記事があれば、先に更新を検討します。本文を作る前に、根拠となる資料と、社内を確認する担当者を決めてください。

02 / WORKSHEET

書けることと、確認待ちを分ける

印刷して記入する素材シート。資料名には更新日・確認者も添えます。

読者・答える質問・読後にしてほしいこと

使う資料・更新日	記事に書けること	確認待ち・確認する人

今回の記事に使わない資料・掲載を保留する主張

記入例：部品メーカー（架空）

資料：現行カタログ → 書けること：現行仕様。

確認待ち：旧型との互換性・在庫・納期。資料がなければ断定しません。価格や条件が食い違う場合は、担当者へ確認します。

03 / DRAFT

本文の前に、構成を確認する

見出しごとに「答え・根拠・確認待ち」をそろえると、確認しやすくなります。

コピーして書き換える構成指示

読者：[どの状況の、誰か]

答える質問：[この記事が扱う1つの質問]

読後の行動：[何を判断・準備してほしいか]

入力：[利用を認めた資料と、前ページの素材表]

渡した資料だけを根拠に、構成案を作ってください。

各見出しに、答え・根拠の資料・確認待ちを付けてください。

価格・納期・実績を推測せず、確認待ちは質問へ分けてください。

構成を確認するまで、本文は作らないでください。

工程	担当者が確かめること
構成の確認	質問に答える順序になっているか。根拠はそろうか。
本文の作成	確認済みの構成と資料を使う。未確認事項を分離する。
表現の編集	抽象的な効果表現を、具体的な行動の説明へ直す。

例：「円滑な進行を実現」ではなく、「見積もり前に商品点数と写真の用途をまとめる」。言葉を短くするだけでなく、読者が次にすることを示します。

04 / CHECK

公開する版を、人が確認する

記事・SNS原稿・画像・リンク・投稿先を、最終版でそろえて確認します。

- ☐ 数字・価格・条件が、現行の資料と一致している。
- ☐ 根拠のない実績・利用者の声・効果を足していない。
- ☐ 事例・画像・引用を公開できることを確認した。
- ☐ 未確認事項を本文に紛れ込ませていない。
- ☐ 本文・画像・リンク先と、承認した版が一致している。
- ☐ 公開する担当者・媒体・日時を確かめた。

制作の分担	社内に残す確認
内製	資料の最新性、事実、公開する版と投稿先
AIを補助に使う	入力できる情報、根拠と出力の照合、公開判断
外部へ依頼する	素材・条件の共有、修正範囲、最終承認

公開後に残す記録

素材集め・執筆・確認・修正・公開にかかった時間を記録。
表示、サイトへの流入、相談を分けて振り返ります。
少数の反応だけで、売上への効果を断定しません。

05 / NEXT STEP

制作と確認の分担から、相談する

資料が少ない場合は、最初のテーマと必要な素材から整理できます。

☐ 作りたい記事・SNS原稿の量と、対象媒体を挙げた。

☐ 使える資料と、社内の確認担当者を把握した。

☐ いま止まっている工程と、任せたい範囲を整理した。

Content Studioの提供状況

現在は招待制での提供に向けた事前相談の段階です。
顧客向けオンライン提供・実SNSへの配信は準備中。
制作本数・媒体・運用範囲に応じて個別見積もり。
利用できる機能・開始時期は相談時に確認します。

記事・SNS制作の進め方を相談する（初回無料）

<https://tech-st.com/contact/?type=marketing&service=content-studio>

Content Studio：支援内容・最新の提供状況

<https://tech-st.com/lp/ai-skillpack/content-studio/>

制作・参照情報

Tech.st 実践ガイド：自社資料からの記事作成

<https://tech-st.com/lp/ai-skillpack/guide/ai-article-creation/>

制作：テキスト株式会社 / 2026年9月23日。自社の公開ガイドをもとに、検討用シートとして再構成。制作にAIを使用。社内での回覧・記入にお使いいただけます。相談フォームへ機密資料を添付する必要はありません。